

J ブルークレジット審査認証委員会（令和3年度）

議事概要等

開催日時：令和3年（2021年）12月20日 15：30

開催方法：会議室（オンラインミーティング併用）

委員：別紙（委員名簿等）記載のとおり（委員7名中7名出席）

関係者：国土交通省 港湾局 海洋・環境課（3名）、「地球温暖化防止に貢献するブルーカーボンの役割に関する検討会」事務局（1名）

事務局：ジャパンブルーエコノミー技術研究組合（5名）

【議事要旨】

1. 座長として、委員の互選により鈴木委員が選定された。
2. 以下の各申請につき、順次、各申請に係るプロジェクトが承認され、これと併せて、各申請に係るプロジェクトの実施につき、審議の結果、各「申請に係るクレジット認証対象の吸収量」に、その「確からしさ」を適切に考慮して定められるべき認証率をそれぞれ乗じた量の吸収量から、各「プロジェクトの実施に伴う排出量」を控除した後のCO₂の量をクレジットとして認証すべき旨がそれぞれ決議され、事務局において具体的な認証量を算出すべきこととされた。
 - (1) 横浜市漁業協同組合 外2 2021年10月31日付申請
「多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動」
クレジットの認証申請対象期間：2020年9月1日～2021年8月31日
 - (2) 山口県漁業協同組合（周南統括支店）外2 令和3年11月2日付申請
「大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港」
クレジットの認証申請対象期間：令和2年10月6日～令和3年10月5日
 - (3) 兵庫県漁業協同組合 外3 令和3年10月27日付申請
「兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり」
クレジットの認証申請対象期間：令和2年9月20日～令和3年9月19日
 - (4) 電源開発株式会社（技術開発部 茅ヶ崎研究所）2021年10月29日付申請
「J-Power 若松総合事業所周辺護岸に設置したブロックによる藻場造成プロジェクト」
クレジットの認証申請対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日

別紙（委員名簿等）

J ブルークレジット審査認証委員会委員

令和3年（2021年）12月20日現在（50音順）

池田 陸郎：カーボンフリーコンサルティング株式会社
取締役・国内事業本部 国内事業本部長
（専門分野：クレジット算定・検証・認証、オフセット制度等）

岡田 知也：国土交通省 国土技術政策総合研究所
沿岸海洋・防災研究部 海洋環境・危機管理研究室長
（専門分野：沿岸環境、生態系サービス等）

佐々木 淳：東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授
（専門分野：沿岸環境、環境再生等）

鈴木 健司：一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター センター長兼検証審査部長
（専門分野：クレジット算定・検証・認証、オフセット制度等）

長谷川夏樹：国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 水産資源研究センター
沿岸生態系寒流域研究グループ 主任研究員
（専門分野：水産増養殖、海藻類等）

三戸 勇吾：復建調査設計株式会社 第一技術部 環境課 課長
（専門分野：浅海生態系、生態系サービス等）

吉原 哲：八千代エンジニアリング株式会社
国内事業部 環境計画部 技術第二課 課長
（専門分野：ブルーカーボン、オフセット制度等）

多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動

横浜市漁業協同組合、NPO海辺づくり研究会、金沢八景一東京湾アマモ場再生会議

◆ プロジェクトの概要

国や自治体、市民団体、学校、漁業者、企業など多様な主体が連携して取り組む「東京湾UMIプロジェクト」

<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kyoku/59engan/umipro/umipro.htm>

平成25年度からアマモ場の再生に取り組み、横浜バイサイドマリーナ横の浅場で10haを超えるアマモ場が再生され、多様な生きものを育む豊かな海辺となりました。また、平成22～24年度の関東地整の藻場造成実験により形成されたアカモク場を、横浜市漁協が種苗の供給を行うなど持続可能な形で、横浜の新たな産品にしています。

◆ プロジェクトの特徴・PRポイント

豊かな東京湾を取り戻すためのアマモ場再生活動や持続可能な漁業は、「生物多様性の向上」や「生物資源の増大」、「地域コミュニティの再生」に加えて、ブルーカーボンの拡大により「地球温暖化の抑制」にも貢献します。

<http://www.amamo.org/> (金沢八景-東京湾アマモ場再生会議Webサイト)

令和2年度に「ブルークレジット」で得た資金は、東京湾内のアマモ場再生に活用するアマモの種子や苗の生産、バイサイドマリーナでの見守り活動、金沢八景付近での再生活動などに活用しています。

◆ 海辺の藻場や干潟などが有する多様な価値

アマモ場やアカモク場などの藻場や干潟などの生態系が持つ多様な価値は、私たちの暮らしを支えています。

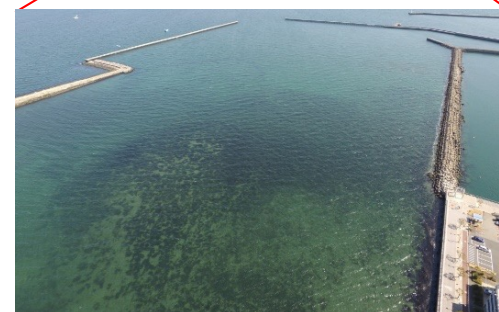
ある試算によると、横浜バイサイドマリーナ横の藻場は以下のような価値を持っていることがわかっています。

食料供給	メバルなどの魚介類の漁獲が年間745kg増加
水質浄化	海の生物によるCOD*の浄化量が年間1.2トン増加
種の保全	この海域で生息する海生生物が28種類増加



アマモ場に群れるメバル

専門家による経済価値の解析では、年間約1800万円に相当すると評価されました。



J ブルークレジット発行概要

2021 年 12 月 24 日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合

理事長 桑江 朝比呂

多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動

(令和 3 年度申請分)

当組合は、「横浜市漁業協同組合」「特定非営利活動法人海辺づくり研究会」及び「金沢八景－東京湾アマモ場再生会議」らを創出者らとする 2021 年 10 月 31 日付「プロジェクト登録申請書兼 J ブルークレジット認証申請書」による申請に基づき、2021 年 12 月 20 日開催の J ブルークレジット審査認証委員会（令和 3 年度）による審査・認証の結果を受け、その申請された

プロジェクト【プロジェクト番号 202101JBCA00001】

の実施に係る

クレジット認証対象の吸収量：37.1 [t-CO₂]

に次の認証率

52.7%（＝活動量認証率 85%×吸収係数認証率 62%）

を乗じた吸収量から、

プロジェクトの実施に伴う排出量：0.14 [t-CO₂]

を控除した後の CO₂ の量（ただし、0.1[t-CO₂]未満端数を切り捨てたもの。）である

19.4[t-CO₂]

につき、次の J ブルークレジット

シリアル番号：202112JBCT00001-001 から 202112JBCT00001-194 まで

を発行した。

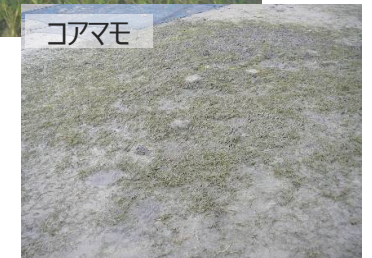
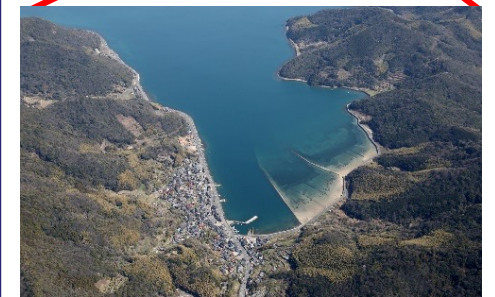
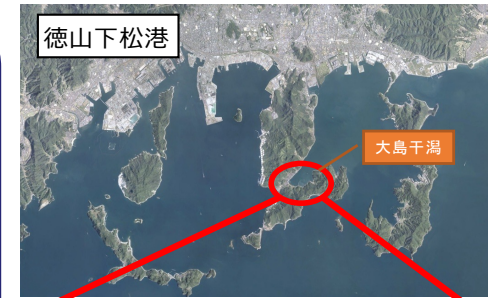
プロジェクト名：大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクトin徳山下松港

プロジェクトの概要

- 大島干潟は、徳山下松港内の浚渫土砂を活用し造成された約29haの人工干潟（平成29年度完成）です。干潟の造成後より、アマモ場・コアマモ場が新たに形成されてきており、現在までに、多様な生態系が構築されてきています。
- 平成29年11月、大島地区住民と山口県漁業協同組合周南統括支店に所属する漁業者の参加・協働により貴重な地域資源である干潟を活用した地域の活性化を目指して「大島干潟を育てる会」（以下、育てる会）を設立し、現在は、育てる会を中心とした保全活動を行っています。
- 育てる会は、アサリ資源の保全や増殖活動、同干潟内のアマモ場・コアマモ場の保全のほか、国・周南市が連携して毎年実施する環境学習活動の支援を行っています。山口県漁業協同組合周南統括支店は、漁業権が設定されている干潟を含む海域での活動について、運営委員会に諮り許可するとともに、モニタリング時の備船、活動への助言・協力等を行っています。周南市は、干潟の管理者として育てる会の活動を支援し、育てる会の保全活動に参加しているほか、ドローンや船舶によるアマモ場やコアマモ場のモニタリングを実施しています。
- これら3者が連携協働して実施している大島干潟での活動は、今後の継続的な活動により多様な生態系の維持及び拡大につながっていくことが期待されています。

プロジェクトの特徴・PRポイント

- 大島干潟での保全活動を通じて、ブルーカーボン生態系の維持・拡大が行われており、生物多様性の向上や地球温暖化の抑制にも貢献しています。
- 地域資源である大島干潟は、保全活動の拡大による地域の活性化や水産振興を目指しており、ブルーカーボン・オフセット制度を活用して、ここから多くの人々がつながることによって、さらなる保全活動の活性化及び持続化、またカーボンニュートラルへの貢献を推進していきます。



J ブルークレジット発行概要

2021年12月24日

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合

理事長 桑江 朝比呂

大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港

(令和3年度申請分)

当組合は、「山口県漁業協同組合 周南統括支店」「大島干潟を育てる会」及び「周南市」らを創出者らとする令和3年11月2日付「プロジェクト登録申請書兼 J ブルークレジット認証申請書」による申請に基づき、2021年12月20日開催の J ブルークレジット審査認証委員会（令和3年度）による審査・認証の結果を受け、その申請された

プロジェクト【プロジェクト番号 202112JBCA00002】

の実施に係る

クレジット認証対象の吸収量：72.6 [t-CO₂]

に次の認証率

61.125%（＝活動量認証率 75%×吸収係数認証率 81.5%）

を乗じた吸収量から、

プロジェクトの実施に伴う排出量：0.03 [t-CO₂]

を控除した後の CO₂ の量（ただし、0.1[t-CO₂]未満端数を切り捨てたもの。）である

44.3[t-CO₂]

につき、次の J ブルークレジット

シリアル番号：202112JBCT00002-001 から 202112JBCT00002-443 まで

を発行した。

プロジェクト名：兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり

プロジェクトの概要

兵庫県神戸市兵庫区に位置する兵庫運河について、水質浄化や藻場の造成、周辺環境美化活動について取り組んでいます。貯木場跡地付近にて、近畿地方整備局・神戸市のそれぞれで造成された2つの干潟での活動について、今回申請を行います。

- あつまれ生き物の浜
- きらきらビーチ

■ 対象

アオサ・ジュズモ・アマモ・干潟

■ 申請者

兵庫漁業協同組合 、 兵庫運河を美しくする会
神戸市立浜山小学校 、 兵庫・水辺ネットワーク



兵庫運河の位置



兵庫運河



小学生への干潟お披露目会



アマモの繁茂

プロジェクトの特徴・PRポイント

- 第五防波堤撤去工事からの発生材(石材、土砂)を流用して、兵庫運河に干潟(あつまれ生き物の浜)を創出しました。
- 磯場・砂場・タイドプールなど、小学生からの意見を取り入れて造成し、環境学習の場として利用されています。愛称「あつまれ生き物の浜」も小学生によって名付けられました。
- 干潟へのアマモの播種や移植などの活動を行っています。
- 漁業関係者や大学生が協力し、干潟の有する水質浄化やCO2固定能力の調査も行っています。

J ブルークレジット発行概要

2021 年 12 月 24 日

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合

理事長 桑江 朝比呂

兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり

(令和 3 年度申請分)

当組合は、「兵庫漁業協同組合」「兵庫運河を美しくする会」「神戸市立浜山小学校」及び「兵庫・水辺ネットワーク」らを創出者らとする令和 3 年 10 月 27 日付「プロジェクト登録申請書兼 J ブルークレジット認証申請書」による申請に基づき、2021 年 12 月 20 日開催の J ブルークレジット審査認証委員会（令和 3 年度）による審査・認証結果を受け、その申請された

プロジェクト【プロジェクト番号 202112JBCA00003】

の実施に係る

クレジット認証対象の吸収量：1.9 [t-CO₂]

に次の認証率

67.5%（＝活動量認証率 75%×吸収係数認証率 90%）

を乗じた吸収量から、

プロジェクトの実施に伴う排出量：0.13 [t-CO₂]

を控除した後の CO₂ の量（ただし、0.1[t-CO₂]未満端数を切り捨てたもの。）である

1.1 [t-CO₂]

につき、次の J ブルークレジット

シリアル番号：202112JBCT00003-001 から 202112JBCT00003-011 まで

を発行した。

プロジェクト名： J-POWER若松総合事業所の周辺護岸に設置した石炭灰重量モルタルブロック等による藻場造成プロジェクト

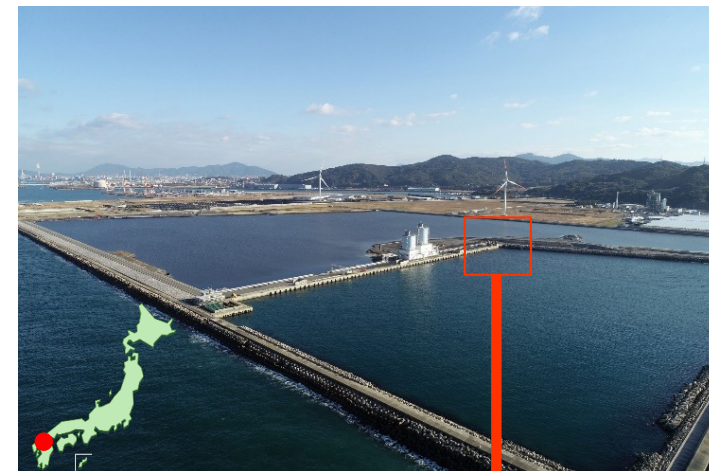
◆プロジェクトの概要

J-POWERでは、平成30年度から石炭灰と銅スラグを主原料としたコンクリート代替材料（石炭灰重量モルタル）を用いた藻場造成効果の高い素材開発に取り組んでおり、設置したブロックには藻場造成実験をとおりて藻類が活発に繁茂することを確認できています。

上記の素材を用いたブロック設置区域を含め、若松総合事業所（北九州）の周辺護岸全体のブロック設置面積は6.4haにおよび、ここにはアラメ、ツルアラメ、ホンダワラが繁茂し海域環境と共生した生物場を作り出しています。

◆プロジェクトの特徴・PRポイント

従来の土木構造物は構造機能の実現に重きを置き構築されてきました。開発中のコンクリート代替材は密度を重くするというグレインフラ機能の増加だけでなく、藻場造成効果に優れた構造物（グリーンインフラ）とすることもできる、いわゆるグリーン・グレイハイブリッドインフラを実現することを目指した取り組みとなっています。



J ブルークレジット発行概要

2021 年 12 月 24 日

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合

理事長 桑江 朝比呂

J-Power 若松総合事業所周辺護岸に設置したブロックによる藻場造成プロジェクト

(令和 3 年度申請分)

当組合は、「電源開発株式会社 技術開発部 茅ヶ崎研究所」を創出者とする 2021 年 10 月 29 日付「プロジェクト登録申請書兼 J ブルークレジット認証申請書」による申請に基づき、2021 年 12 月 20 日開催の J ブルークレジット審査認証委員会（令和 3 年度）による審査・認証の結果を受け、その申請された

プロジェクト【プロジェクト番号 202112JBCA00004】

の実施に係る

クレジット認証対象の吸収量：24.4 [t-CO₂]

に次の認証率

80.75%（＝活動量認証率 85%×吸収係数認証率 95%）

を乗じた吸収量から、

プロジェクトの実施に伴う排出量：4.02 [t-CO₂]

を控除した後の CO₂ の量（ただし、0.1[t-CO₂]未満端数を切り捨てたもの。）である

15.6 [t-CO₂]

につき、次の J ブルークレジット

シリアル番号：202112JBCT00004-001 から 202112JBCT00004-156 まで

を発行した。